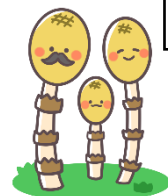




コミュニティだより



発行 登米市吉田公民館
 (指定管理者 吉田コミュニティ運営協議会) TEL: 0220-55-2124
 FAX: 0220-55-4528

吉田コミュニティ運営協議会



吉田コミュニティ運営協議会理事会開催

3月30日に吉田コミュニティ運営協議会の理事会を開催しました。主な議案は、コミュニティと公民館の令和5年度の事業計画について。今年度はコロナ禍前に戻して、盆踊り大会を8月16日、コミュニティ運動会は9月4日、新春交歓会や世代間交流大会も開催することに、また、公民館が行う各種講座も目いっぱい組むことに決まりました。ぜひご参加ください。

なお、5月26日午後6時半から吉田コミュニティ運営協議会の定期総会を予定しておりますので、各行政区の評議員の皆さんにはご出席をお願いいたします。

歴史講座「温故知新」移動研修会 IN 多賀城

今年度3回目の移動研修会を3月23日に受講生20名が参加して多賀城で開催しました。今年度のテーマである「吉田遺跡」を深く学ぶために、奈良・平安時代の陸奥の国の国府と鎮守府が置かれ、政治・軍事の中心だった史跡多賀城を学んできました。

午前中は、国の特別史跡となっている多賀城跡や重要文化財の多賀城碑、復元された外郭南門などを実際に歩きながら専門ガイドの説明を受け、午後には多賀城市埋蔵文化財展示室で多賀城市内の遺跡から出土した品々を学芸員から説明を受け、受講生の皆さんはこんなにすごい所とは思わなかったと驚きの声をあげておりました。「遠の朝廷（とおのみかど）」とも呼ばれた多賀城は来年が多賀城創建1300年です。ゆっくり訪ねてみてはいかがでしょうか。



キッズサークル移動楽習会並びに閉級式

キッズサークルの閉級式を兼ねて3月28日移動楽習会を開催。「今回は卒業した6年生を交えて楽しい思い出作り!!」

塩釜から観光船で松島瑞巖寺を目指して40分間の船旅。瑞巖寺ではガイドさんに歴史や室内、伊達政宗公について、解りやすく説明を受けました。昼食後には、観光地松島ならではの笹かまぼこ焼きやお土産買い等、それぞれの体験を満喫。世界で最も大きいオルゴールの演奏を聞き、一路帰り道。バスの中では1年を通しての思い出や、今回の感想を聞き閉級式。成長を感じた1年間でした。



裏面もご覧ください ➡

平筒沼ふれあい公園桜まつり 4年ぶりに開催

コロナ禍により3年間中止された桜まつりが4月16日に開催されました。今年の桜は異常と言えるほど早く咲き始め、見ごろは過ぎて葉桜へと変化していく中での開催でした。

今年は屋外にステージを設置したこともあり、前日午後から降り続いた雨が心配でしたが、朝には止んで絶好の行楽日和となり、待ちに待った桜祭りの開演となりました。丸山太鼓の演奏でオープニング、実行委員会の今野会長あいさつ、来賓祝辞、よさこいサークルの皆さんの演舞と続き、米山愛子さんのステージ、そして文化協会加盟の出演団体による舞踏やフラダンス、居合道など30演目が披露され拍手喝采でした。久方ぶりのお祭りに観客の皆さんが、それ以上に演技を発表した皆さんが大喜びしていました。お祭りっていいものですね。



公民館事業学級生大募集！！

カラー刷りの公民館だより合併号でお知らせしていますが、今年度の公民館事業の学級生の募集が始まりました。募集締め切りは5月12日（金）となっています。皆さんの参加お待ちしております。ご不明な点等ありましたらお気軽に吉田公民館までお問い合わせください。

また、4月から事務員 倉島が産休・育休を終え復帰いたしました。公民館事業等担当いたしますので、改めてよろしくお願いいたします。

館長の戯言（ざれごと）No. 18 「きゃほず」（参考図書：方言に生きる古語）

高校時代の気の合う仲間とスマホのグループラインを使って情報交換をしています。3月の初めに劇団を主宰する M 君から NHK の E テレの「日本語であそぼ」という番組に登米市で使われているある方言が紹介され、劇団のメンバーが出演する。との情報が寄せられました。

ある方言とは「きゃほず」か「きゃっぽり」か。「つぎたがり」「ぬさ」「とぜん」「とろっぺす」「ほでなす」かとラインでは大いに盛り上がりしました。結果的に番組で取り上げられた方言は「きゃっぽり」で、水溜りなどに足を突っ込んでしまい、靴や靴下までびちょびちょになってしまうという意味で使われている方言です。きゃっぽり、かっぽり、という地域もあります。この語源に挑戦しましたがなかなかたどり着けませんでした。

そこで当地を代表する方言「きゃほず」を調べてみました。「きゃほず」の語源は国語辞典に載っている「掻い堀り」でした。意味は「池・沼などの水を汲みだして干し、中の魚を捕ること。」ですので、当地で使っている「きゃほず」そのものズバリです。国語辞典にも載っている共通語「かいぼり」がどのように伝わって「きゃほず」になったのか、方言で面白いですね。ちなみに当館の若い二人の職員は「きゃほず」も「きゃっぽり」も知りませんでした。